スタッフのつぶやき

ぶつぶつ…　ぶつぶつ…　ぶつぶつ…　ぶつぶつ…　ぶつぶつ…　ぶつぶつ…

今月のお休み

小早川幸一郎
Koichiro Kobayakawa

NHKの連ドラ『とと姉ちゃん』、いよいよ出版社を立ち上げる話になりました。女性の自分が家族を養っていくには、勤め人の給料では足りないので自分の会社をつくるしかない、という主人公常子の気合には脱帽。私も29歳で出版社を立ち上げましたが、常子の場合は、戦後の焼け野原の中、女26歳での起業ですからね。ドラマでは次の話が待ち切れず、『暮らしの手帖とわたし』というドラマのモチーフ本を読んでいます。出版人へお薦めの熱くなる本です。

根本輝久
Teruhisa Nemoto

先日フットサルをしていて転倒したときに、手を変なふうに着いてしまい、薬指を脱臼してしまいました。1ヶ月半たった今も薬指が曲がらなくてたいへん不便しています。ケガをした当初はキーボードを打つときに、左手と薬指の動かない右手のギャップに苦しみ、タイピングスピードが半減していました。最近は薬指が動かないことに慣れてきて以前より速くタイピングできるようになりましたが、治っても薬指を使わないタイピングが体に染みついてしまっていそうで不安です・・・。

大森三規雄
Mikio Omori

任天堂の「ポケモンGO」が話題になっていますが、我が家では同じ任天堂でも「Wii　Party U」というゲームソフトに最近ハマっています。休日に息子と対戦しているのですが、パーティゲームやミニゲームが多数入っていて、一つ一つのゲームは非常に単純でも、丁寧に工夫をこらして作られていて改めて任天堂のコンテンツ力を感じました。老若男女幅広く楽しめるゲームなので夏休みに親戚やご友人と遊ぶのにおすすめです！

富浦奈津
Natsu Tomiura

一度行ってみたかった「リカちゃんキャッスルのちいさなおみせ」に足を踏み入れてみました。「大人のためのドールショップ」というコンセプト通り、大人の方がたくさん。「子どものころからずっとリカちゃんが大好き」な方が店長さんだけあって、リカちゃんのために作られた小さなお洋服も靴も、きらきらと美しく、見ているだけでも楽しめました。お目当ての「日本橋モデルリカちゃん」には会えなかったので再訪したいと思います。

橋場優
Yu Hashiba

先日、虫嫌いを克服する方法、というテーマのＴＶ番組を観ました。番組の中で、極度の虫嫌いを克服したいという相談者が、３匹のテントウ虫に名前をつけて３日間観察することになります。そのうち３匹の行動パターンの違いを知りそれぞれのキャラクターを想像し、親しみや愛着を感じるようになり徐々に苦手を克服、さらに他の虫にも興味を持ち始めるという…なるほどそれはきっと虫嫌い克服以外にも通ずるプロセスだな、と思いました。

竹内悠一郎
Yuichiro Takeuchi

5月に受けた健康診断の結果が酷く、多くの項目が"H"でした。実は7月に誕生日を迎え28歳になったのですが、周りの人からは「まだ28歳なのにその結果は…」と唖然とされます。さすがにやばいと思い、朝ランニングを始めたのですが、10年間ほど運動する習慣がなかったので、最初の頃は2kmを完走するのがやっとでした。最近はだいぶ慣れ、距離延長を考えるまでになりました。この調子でしっかり継続していきたいと思います。

吉田倫哉
Tomoya Yoshida

新卒採用真っ盛りの季節ですね。さて、ものごとを決める時どう決めていますか。私は、勘と直感はあてにならないと思っています。いや、最後はそれに頼って「エイヤー！」とするしかないのですが、特に採用など人の人生に大きく影響することほど、プロセスは重要だと思います。その問題点を見極め、様々な切り口で判断基準を決め、情報を集めてそのあとにはじめて「エイヤー」とすべきだと思います。『熟断思考』という本ではそれを「インテリジェント・エイヤー」と呼んでいます。ご参考まで！

長谷真治
Shinji Hase

『ポケモンGO』が話題になっていますね。ニュースを見るたびに小学生のとき『ポケットモンスター緑』に熱中していたことを思い出します。『ポケットモンスター赤・緑』が発売されたのが1996年。同じ年に社会現象を巻き起こしていた『たまごっち』も今年“海外セレブの中で流行”というニュースが出ていました。10年、20年と残っていくような書籍やサービス……つくってみたいものです。因みに、1996年のベストセラーは『脳内革命』や『「超」勉強法』など。

金井紅実子
Kumiko Kanai

同級生と「もし明日から電車のルールを変えられるなら」という話題に。私の案は「前の人を押したら減点1、減点10でペナルティ」です（何の？）。終盤は、車内での電話と化粧を解禁するかどうかでひと盛り上がり。私は電話はダメだけど化粧は穏健派です。理由は耳はふさげないけど目はつぶれるから（でも自分ではしないですよ）。納得する男性もいれば「それは違うじゃんか」と呆れる女性も。皆さんはどうですか？

播磨谷菜都生
Natsuki Harimaya

この間、久しぶりに自動車を運転しました。大学時代に免許を取得して以来、完全にペーパードライバーだったのですが、旅行先で必要にせまられ、ハンドルを握ることに。道に迷いつつ徐行運転していたら、後ろに車の列ができてしまったり、車庫入れで駐車場の真ん中に止まり身動きが取れなくなったり…。多難でしたが、自分の行きたいところに一直線に向かえるところが気に入りました。運転が上手になって、北海道の広い道をビュンビュン飛ばすのが、今後の目標です。

クロスメディアかわら版

Vol.95 2016.8

An ordinary office worker to a great business man.

1 できたことノート ／ 2 アメリカのビジネス書トレンド ／ 3（元）スタッフのつぶやき ／ 4 スタッフのつぶやき…

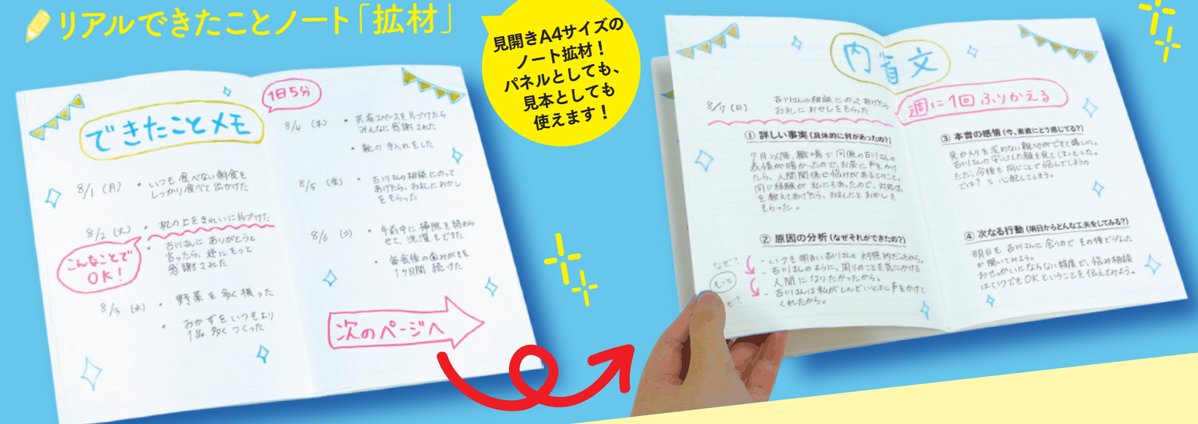
クロスメディア・パブリッシング　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-20-3 東栄神宮外苑ビル　Tel : 03-5413-3140　Fax : 03-5413-3141　http://www.cm-publishing.co.jp

手にとりやすい表紙と拡材で売上好調です!!

見本　パネル　POP

東京以外の都道府県で、3入3売、5入5売の書店さんも！

リアルできたことノート「拡材」



売れている理由

メソッドの手軽さ！

「1日5分、その日に『できたこと』をノートにつけるだけ」という明快なメソッドがウケています。

発売3日での売上実績が波及！

発売日からしかけていただいた店舗で売上良好、その売れが同チェーンさんに広がり、似た客層の書店さんにご案内したことが実売に繋がってきています。

新聞広告を掲載しました！

7/13(水)日経新聞全5段、8/4(木)毎日新聞全5段広告掲載しました。今後も新聞広告を打つ予定です。

展開写真

1面置いていただいたお店でも売れています。初回配本のなかった書店さんはぜひご検討ください！

アメリカのビジネス書トレンド

BARNES & NOBLE BOOKSELLERS　7月のTOP10

順位	タイトル	邦題（翻訳書がないものは訳）
1	Grit: The Power of Passion and Perseverance	（仮題）くじけず情熱的にやりぬく力 著:アンジェラ・ダックワース
2	Real Food/Fake Food: Why You Don't Know What You're Eating and What You Can Do about It	（仮題）本物の食べ物/偽物の食べ物:普段食べている物の真実と、あなたができること 著:ラリー・オルムステッド
3	The Power of Habit: Why We Do What We Do in Life and Business	（邦題）習慣の力(講談社) 著:チャールズ・デュヒッグ
4	Outliers: The Story of Success	（邦題）天才!成功する人々の法則（講談社） 著:マルコム・グラッドウェル
5	The 48 Laws of Power	（邦題）権力(パワー)に翻弄されないための48の法則（角川書店） 著:ロバート・グリーン
6	How to Win Friends and Influence People	(邦題)人を動かす(創元社) 著:デール・カーネギー
7	The 4 Disciplines of Execution: Achieving Your Wildly Important Goals	(仮題)実行への4つの規則・あなたの野心を叶えるために 著:クリス・マケズニー
8	JumpStart Your Growth: A 90-Day Improvement Plan	（仮題）成長する未来に急発進:90日の成長計画 著:ジョン・C・マクスウェル
9	Freakonomics: A Rogue Economist Explores the Hidden Side of Everything	（邦題）ヤバい経済学（東洋経済新報社） 著:スティーヴン・Dレヴィット、J・ダブナー
10	Shoe Dog: A Memoir by the Creator of Nike	（仮題）靴の犬:ナイキ創業者の回顧録 著:フィル・ナイト

このコーナーでは某商社NY本店に勤務するビジネス書大好き人間が、日々通う書店のビジネス書コーナーで感じたことをお話ししていきます。
いよいよ観光シーズンも本番!そんな8月は第一から第三の土曜日に、マンハッタンの真ん中の通りを封鎖して歩行者天国にしてしまうサマーストリートが行われますよ!日本でいうと渋谷のスクランブル交差点が歩行者天国になるようなもの。せっかくの機会なので、ゆっくりショッピングしてみてはいかがでしょう?

それでは、今月のランキングを見ていきましょう。
まずは、4位にランクインした『Outliers: The Story of Success』。『ディッピング・ポイント』や『ブリンク』などのベストセラーを出した、マルコム・グラッドウェルの3作目。一流スポーツ選手やスティーブ・ジョブズなどの天才たちが生まれた環境など子育てに役立ちそうなことから、どんな才能や技量も1万時間練習すれば本物になる「1万時間の法則」などの今から実践できることまで幅広くまとめた一冊。著者の成功の定義は「意義がある仕事」をできるかどうか。今の自分の仕事の見方を変えたい人にオススメです。

そして、5位の『The 48 Laws of Power』。
古今東西の賢人・愚人から学ぶ、権力に翻弄されずに生きていくための48の法則をまとめた一冊。官僚、色事師、詐欺師、娼婦など、権力に近い人々がどう立ち回ったかを教えてくれます。この法則に背いたがために失脚した例も載っているので実用性はお墨付き。「誰にも深く肩入れするな」「友を装ってスパイを働け」など、恐ろしくもなるほど、となってしまう法則が満載。
最後に10位の『Shoe Dog: A Memoir by the Creator of Nike』。先月末に退任を発表した、世界的スポーツブランドナイキの創業者、フィル・ナイト氏の回顧録。彼がナイキを経営していて遭遇した様々なリスクや挫折、ライバルや自分に向けられた懐疑などにどう対処したのかが紹介されています。「何かを売りたいのなら、その売りたいものを信じなくてはならない」など、ビジネスでも役立ちそうな彼のメソッドが詰まった一冊。

今月は、成功者から学ぶ本が多い月となりました。次回はどんな本が登場するのでしょうか。
それでは、次回のランキングをお楽しみに!

クロスメディアかわら版　Vol.95 2016.8

さらば!中山!大沢! (元)スタッフのつぶやき

今年の4月、弊社営業部のメンバーの入れ替わりがありました。新担当者が書店に伺い始めて早3か月、ちらほら尋ねられます。「中山さんって、今何してるの？」「大沢さん元気ですか？」と……。今回はそんな中山と大沢をフィーチャーします。

Q 彼らはどこへ行ったの？

A クロスメディア・マーケティングでモリモリ頑張っています！

ビジネス書以外のジャンルで著者へのアプローチをしたり、企業に定期購読をおすすめするといったマーケティング活動をしています。

ヴィンテージ・コレクターはアメリカの夢をみる（左）
不登校になったら最初に読む本（右）

先日、ある著者候補の方から「『重版出来！』のような出版社と仕事をしたい」と打ち明けられました。帰社してから、創業以来10年の自分の営業を振り返ってみたのですが、全国各地の書店員さんに助けられながら書店営業に求められるスキルや心持ち、ノウハウを叩き込まれた10年だったと思います。本を売るために試行錯誤、全国行脚したことが確実に今の仕事に活きています。ありがとうございます。最近は東京にいることが多くなりましたが、また全国を営業したいです（そして、各地の美食を楽しみたいです）。

皆様に協力してもらいながら「自分達でしかけて、自分達で売る」営業ができて楽しい3年間でした。『起業家のように企業で働く』は思い出の一冊で、書店員さんにアドバイスをいただきながら手書きPOPをつくり、POPを元にカバーを巻き替えて売り伸ばし、現在3万部を超えております。お付き合いのあった書店員さんは私の拙い企画にも気持ちで応えてくださる方が多く、人に恵まれていたとしみじみ思います。引継ぎの際「半年だけでしたけど、体感では2年くらい一緒にいた感じです」「寂しいですね」と言っていただき嬉し涙。今までありがとうございました。

名物講義「斉藤塾」Vol.6

仕掛け売り講座　～思い入れが商品確保を支援する～

（前回続き：交通広告の掲載（2点）に伴い、店頭で「若手女子書店員対ベテラン営業マン」のしかけ売り対決を企画したが……）
店の顔の作り直しの最終兵器は新書担当のイチオシ作品でした。

1. 店頭の活性化対策としてこの２作品（交通広告２点）を取り上げる。
2. テーブル１台１冊で大きく展開する。
3. 塾生の10万部計画を支援する。

新書担当はこうした大義名分を持ち出して出版社と交渉し、商品を出荷していただけるように働きかけました。すると「そこまで言われたら出さざるを得ません」と言って、出版社の新書担当が満数出荷の手配をしてくれました。6月18日に『だから日本はズレている』が150冊、『自分の壁』が200冊入荷してきました。朝便での入荷でしたが、今回は新書担当が早番で出社していましたので、二人で協力して陳列を完成させました。予定していた7作品が揃いましたので、商品のボリューム感を調整しながら、テーブル配置を一部変更し、作品の主張がお客さまに伝わるように、それぞれの作品に合った場所に配置し直しました。新書担当おすすめの2作品は大きめのテーブル1台に2作品を並べることになりました。既刊の『だから日本はズレている』を縦3列横3列の9面にし、新刊の『自分の壁』は縦3列横4列の12面にして陳列しました。同じ系統の装丁が並ぶのはある意味壮観なのですが、お互いを殺しあうこともあるのでパネルとPOPで商品を強調するようにしました。どちらも売れ筋商品でしたので期待値はとても高いものがあります。一つのテーブルに二つの商品を並べるのはある意味邪道ですので、両方とも売上が取れるのか心配しましたが、両作品ともそれなりの実績をつくってくれました。これで店の顔の作り直しと入り口活性化対策の商品展開が完了しました。これまでの雑然とした、何を強調しているのかわからないスペースから、店の担当者のおすすめする思いがお客さまに伝わるスペースとして認知されるようになりました。ただ、若手社員のおすすめ作品を店の入り口に展開し、仕掛け売りの成功体験を積めるようにしたはずなのですが、積極的なメンバーの商品ばかりが並んでしまいました。ジャンル的には文芸作品や小説系の文庫作品がもっと並ぶべきなのだろうと考えています。

ベストセラー斉藤塾　斉藤敬司